

令和8年1月24日

岩手町立統合新設中学校開校準備委員会
委員長 武田 茂 様

岩手町立統合新設中学校開校準備委員会
学校運営部会長 佐々木 雅史

岩手町立統合新設中学校開校準備委員会第3回学校運営部会経過報告書
標記について、下記のとおり報告します。

記

- 1 日 時 令和8年1月21日（水）15：25～16：25
- 2 場 所 議会委員会室
- 3 出席委員 6名
- 4 欠席委員 3名
- 5 会議内容 (1) 校訓の選定について
(2) 学校教育目標の選定について
(3) 開校記念行事及び生徒職員交流事業調査について
- 6 協議経過 別紙のとおり

担当 岩手町立統合新設中学校開校準備委員会事務局 (岩手町教育委員会事務局) 八戸 電話 0195-62-2111 (内線 344)

(1) 校訓の選定について

【事務局の説明】

- ・ 校訓の意義、統合新設中学校の施設整備に関する基本方針、校訓設定における留意すべき事項（案）を説明する。
- ・ 校訓（案）として、4案を提示し、意味説明や校訓（案）の比較検討資料を提示し、意見を求めた。

【主な意見】

「第④案）」

- ・ 異なる3校の文化を混ぜ合わせ、新たな価値を地域一丸で作るイメージに合う。現在の教育トレンドや町政の方針とも合致する。
- ・ 「文化祭やイベントのテーマのようである」という意見や、中学生には少し抽象的すぎるという指摘があった。

「第①案」

- ・ 非常に分かりやすく、生徒の心に残りやすい。将来、同窓会などで振り返った際にも共有しやすい。
- ・ 表現として、教育的な重みに欠けるという意見があった。

「第③案」

- ・ 中学生という時期に「志を立てる」重要性を強調できる。

【協議結果】

- ・ 校訓については複数の案が出されましたが、最終的に2つの案に絞り、次回会議で決定することとなった。

(2) 教育目標について

【事務局の説明】

- ・ 資料のとおり説明し意見を求めた。

【主な意見】

- ・ 「ふるさとを愛し」というフレーズを入れ、町の教育目標との整合性を図る。
- ・ 小学校は「地域と共に成長する」、中学校は「地域を創る（人材育成）」という段階的な役割分担を意識する。
- ・ 「故郷」「ふるさと」「郷土」といった言葉の使い分けや読み方については、さらに精査が必要。

【協議結果】

- ・ 次回の会議で決定することとなった。

(3) 開校記念行事及び生徒職員交流事業調査について

【事務局の説明】

- ・ 令和10年度の開校時にスムーズなスタートを切るため、事前の交流を計画するため、資料のとおり説明し意見を求めた。

【主な意見】

- ・ Q どういうものを想定しているのか。
A 現在既に行われている交流（「岩手町学」、吹奏楽・スポーツ等のクラブ活動）の実態を調査する。

【協議結果】

- ・ 次回の調査報告することとなった。

(4) その他

- ・ 制服・校章・名札等の運用にあたり、開校までの移行期間（令和8・9年度）の運用について、現場の混乱を防ぐための確認が行われました。
- ・ 移行期間の制服として、新1年生は新制服を購入するが、名札や校章、着こなしのルールは「既存校の裁量（現在の校則）」に任せる方向。
- ・ 開校後（令和10年～）の名札は「なし」の方向で過去に議論されたが、登下校時や校内での扱いに曖昧な点があるため、再確認が必要。
- ・ 校章・バッジ類の作成に多額のコストがかかり、業者の在庫リスクもあるため、慎重な検討が必要との意見があった。
- ・ 制服移行期間の各種取扱方針について、教育委員会より別途通知を発出し、各中学校にて対応することとした。